

コラム

段丘崖と湧水について勉強してみよう

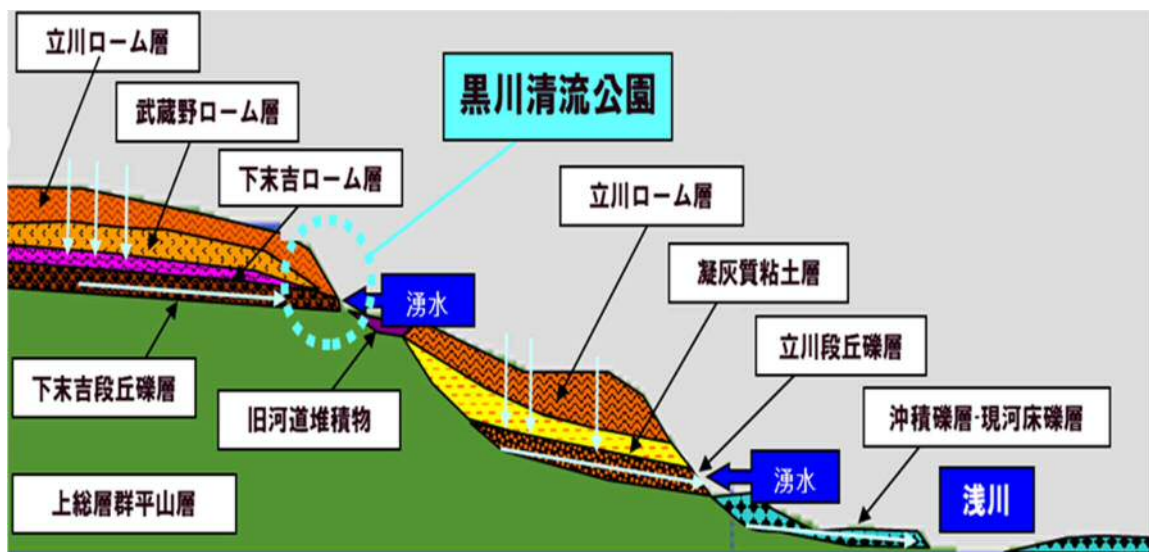
地質調査業と湧水調査との係わりについて紹介します。

1. 豊田付近の地層と湧水

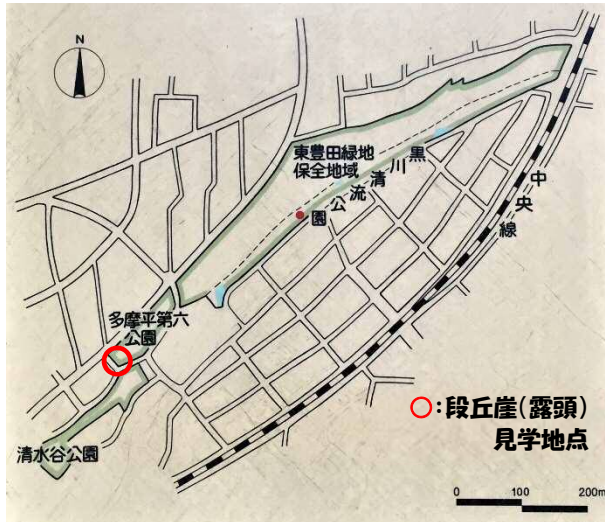
武蔵野台地には2種類の発達した河岸段丘が見られます。ひとつは武蔵野台地の南部を流れる多摩川によって形成されたもの、もうひとつは北部に見られかつての多摩川の流路の名残と考えられているものです。

「段丘」とは、海岸や川沿いに見られる平らな面（段丘面）と急な崖（段丘崖）からなる階段状の地形をいいます。海面変動と地殻変動が複雑に絡み合って形成されますが、土石流や火山活動による川のせき止めや、河川流路の変更などによっても形成されることがあります。

多摩川と浅川に挟まれた豊田付近にも2つの段丘が見られます。高い方を日野台地、低い方を吹上台地と呼びます。高低差は数メートル程度あり、下図のように段丘崖の表面に現れた砂礫層（露頭）からは湧水（砂礫層を流れる地下水が流出したもの）が見られます。



■ 豊田付近の地層と湧水



■立川ローム層（露頭）の見学風景
(出典：「東豊田緑地の保全地域区域図，
日野市」に加筆)

2. 黒川清流公園

J R 中央線豊田駅北口から東京方面に歩いて10分ほどのところに「東豊田緑地保全地域」があります。細長い斜面（日野台地の河岸段丘崖）にはクヌギやコナナなどの樹林が



広がり，崖下には豊富な地下水が湧き出ています。

この湧水は「東京の名湧水 57 選」や「水辺のある風景日野 50 選」に選定されています。現在，この湧水を利用して「黒川清流公園」が整備され，市民の憩いの場所として親しまれています。



当協会では，黒川清流公園ならびに園内の緑地保全区域を管理する東京都および日野市のご理解・ご協力を賜り，『土壌・地下水環境調査技術講習会』を開催しました。

※当講習会の様子は，「東地協ニュース 2017. 12 第 33 号」にて紹介していますので，あわせてご覧ください。

http://www.tokyo-geo.or.jp/tochikyo_news/pdf/033.pdf

